

## 新型コロナウイルス感染症 (covid-19) に関するインタビュー

Marx21, 2020年3月21日 脇浜義明訳

コロナウイルスで世界はショック状態。しかし諸政府はこの疫病の構造的な原因と闘うよりは、やたらと緊急事態を発令しているばかりである。ヤアク・パブスト (Yaak Pabst) は、進化生物学者で公衆衛生システム地理学者であるロブ・ウォレス (Rob Wallace) に、新型コロナウイルスの危険性、アグリビジネス (工業的大農業) の責任、感症と闘う持続的解決法について、インタビューした。 — Marx21 編集部

**コロナウイルスはどれほど危険なのですか。**

あなたが住んでいる地域の発症率の時期、つまり初期、ピーク時、終末期かによって危険度は異なります。それに地域の公衆衛生当局の反応の仕方によっても異なります。人口、年齢、免疫力の程度、基礎体力によっても異なります。あなたの免疫遺伝、つまり免疫反応の基礎となる遺伝子特徴が新型コロナウイルスに合うかどうかでも、感染度の基準となるでしょう。

**では、今世界中の政府の大騒ぎは単なる脅かし戦略なのですか。**

そうではないでしょう。民衆の眼から見て考えましょう。武漢で発生した頃の致死率は2~4%でした。武漢以外では1%以下ですが、拡散が著しく、イタリアや米国にも広まっています。致死率に関しては、サーズ (10%)、1918年のインフルエンザ (5~20%)、鳥インフルエンザ H5N1 (60%)、ある時点のエボラ熱 (90%) とは比較にならないほど低いです。しかし、一般の季節性インフルエンザ (0.1%) より高いのは確かです。しかし、致死率だけが問題ではありません。「浸透」、つまり自分たちが暮らしているコミュニティの発症率、つまり世界中の人々が感染する危機にあるという問題に取り組むことが重要です。

**具体的に言ってくれませんか。**

世界交通網は歴史的密度で繋がっています。しかも新型コロナウイルスに対する抗ウイルス剤はまだないし、まだ集団免疫も出来ていませんから、僅か10%以下の致死率でも大きな危険となります。潜伏期間が2週間で、その間発病していなくても感染した実例も報告されているので、安全な場所はほとんどありません。単純計算しても、致死率1%の新型コロナウイルスが40億人の人に感染すれば死者が4千万人になります。恐ろしい数字です。

**一見あまり猛毒でないウイルスにしては、ものすごい死者の数になりますね。**

そうです。しかも流行は始まったばかりです。多くの感染症は流行が進むにつれいろいろ変化します。場合によっては感染力や毒性が弱まる場合もあります。反対に毒性が高まることもあります。1918年春のインフルエンザ大流行の第一波は比較的穏やかでしたが、その年の冬に襲ってきた第二波と第三波では数百万人が死にました。

**パンデミック論を懐疑する人は、新型コロナウイルス感染で死亡した人の数は通常の季節性インフルエンザの死者よりも少ないことを指摘していますね。**

私も新型コロナウイルス感染症が不発に終わってくればよいと思っていますよ。しかし、他の致命的な病気、特にインフルエンザを引き合いに出して新型コロナウイルスの危険性を軽視する議論は、誤解に基づく不安だと片づけようとする修辭的技巧です<sup>1</sup>。

**季節性インフルエンザとの比較はあまり意味がないとおっしゃるのですね。**

二つの病原体を、それらの異なる伝染曲線と比較するのは意味がありません。毎年襲ってくる季節性インフルエンザに感染する人は世界中で数百万人、そのうち、WHO の推定では、65万人が死亡しています。新型コロナウイルス感染症は今始まったばかりです。インフルエンザと異なり、感染を遅らせたり、阻止するワクチンもないし、人々の間に集団免疫もありません。

**両者比較は誤解を招きかねませんが、どちらの感染症もウイルス、RNA ウィルスという特定ウイルスに属しています。どちらも口や喉や肺を侵し、しかも感染力が強いですよ。**

それは表面的な類似で、重要な点を見落としています。一般インフルエンザの働きについてはかなり分かっていますが、新型コロナウイルスについてはほとんど何も分かっていません。この伝染病が全面的な猛威を振るうまでは、その正体は未知数のままです。しかし、新型コロナウイルスかインフルエンザかという問題ではなく、この二つのダブルパンチが怖いのです。両感染症やその他の病気とが組み合わせあって我々を襲うという、多重パンデミックとなる可能性が問題なのです。

**あなたは長年疫病とその原因について研究されてきました。あなたの著書『大農業と大流行病』(Big Farms Make Big Flu)<sup>2</sup>は、工業的農業経営、有機農業、ウイルス性伝染病の関係を検討しています。その点についてコメントしてください。**

本当の危険は、新型コロナウイルス感染症が決して偶発的事件ではないことを理解しないことです。もっと正確に言えば、ご都合主義的にそういう理解を意図的に拒否することです。この感染症は食品生産と多国籍企業の利益と密接に繋がっています。ウイルスが危険化する傾向にあることを理解したければ、工業的農業モデル、具体的には畜産を調べるべきです。現在そういう研究をする政府も科学者もほとんどいません。

新型コロナウイルス感染症が発生したとき、政府もメディアも、医学界すらも、個々の緊急事態にばかり注意を集中し、それまで人目につかなかった周辺の病原体が突然に次々と世界的有名になるのは何故かという、構造的原因に注意を払わなかった。

**誰に責任があるのですか。**

私は「工業的農業」と言いましたが、もっと広く考える必要があるでしょう。資本の土地収奪は最後の原生林や小農の小さな耕作地にまで及んでいます。資本主義的農業が行う森林伐採と乱開発のために、眠っていたウイルスや細菌が飛び出て、未知の病気が発生するのです。もともと大地が持っていた複雑で多様な機能が大農業のために土地が整備簡素化されるため、それまで閉じ込められていた病原体が表に出て家畜や人間に取り付くのです。簡単に言えば、ワシントン、ニューヨーク、香港などの資本センターが疾患のホットスポットと考えていいでしょう。

**どういう病気を指しているのですか。**

現時点では資本と無関係な病原体はありません。末端の僻地も資本の影響下にあります。エボラ熱、ジカ熱、コロナウィルス、黄熱病復活、種々の鳥インフルエンザ、豚が感染するアフリカ豚コレラなどは世界の最奥から出現し、都市近郷地域、地方都市、そしてついには世界交通網に乗って全世界を襲いました。コンゴのオオコオモリから発して数週間のうちにマイアミの日光浴客を殺すのです。

**その過程で多国籍企業はどんな役割を担っていますか。**

バイオマスと土地利用の観点から見て、惑星地球は惑星農場です。アグリビジネスは食糧市場の独占を狙っています。先進工業国の企業が弱小国家の土地と資源を盗むのを支援する仕組みが、ネオリベラル・プロジェクトです。その結果、それまで長い間森林エコロジーによって抑えられていた未知の病原体が解き放たれ、世界を脅かすようになったのです。

**アグリビジネスの生産方法がそれに対してどのように影響したのですか。**

資本主導の工業的生産方法が自然エコロジーに依拠する農業に取って代わり、その中で病原体が猛毒性感染表現体へと進化します。資本主義的生産方法ほど上手に病原体を培養するシステムはありません。

**どうしてそうなるのですか。**

遺伝子的に単一家畜類（モノカルチャー）を工業生産的に飼育すると、病原体の感染を鈍化させていた免疫防火帯を破壊・除去することになるからです。人口密度が大きいところでは感染率が高まり、免疫反応も低下します。工業的生産が持つ高い処理能力のために、病原体進化の燃料となる感染体、つまり動物や人間、が絶えず新しく供給されます。言い換えると、アグリビジネスは利益に夢中なので、仮に10億人の命を奪うウィルスを拡散することになっても、それを必要リスクと見るのです。

**何ですって！**

そのリスクを被る気はありません。企業は疫学的に危険な工程のコストを自社以外のものに外部化するだけなのです。家畜、消費者、農業労働者、地域環境、行政一般に外部化するのです。コストとなる被害は非常に大きいので、それを企業のバランスシートに戻せば、現在のアグリビジネスは成立しないでしょう。コストに耐える企業はありません。

**新型コロナウイルス感染症の始発点は武漢の野生動物食品市場だというメディア報道があります。それは正しいですか。**

イエスでもあり、ノーでもあります。空間的順序から言えばそう言えるでしょう。接触追跡で感染経路を辿ると、野生動物を販売している武漢華南海鮮卸売市場に結びつくからです。環境サンプルによる調査で商品の野生動物が販売されていた市場西端が浮かび上がってきたからです。

しかし、こういう調査をどこまで遡り、どれだけ広くやるかという問題があります。厳密にはどこが病気の起点となるでしょう。武漢の市場を強調しすぎると、森林奥地で野放しで活動している資本主義的アグリビジネスという真の起点が曖昧になります。中国に限らず世界的に野生動物食用化は一経済部門として定式化しています。それが工業的農業と結びついて、同じ財布を共有して、どんどん拡大しているのです。野生動物を食用家畜 — 豚は家禽類 — として工業的手法で生産する農業が原生林の奥地へ入り込んで、生態系を掻き

乱しています。アグリビジネスの圧力で業者は食用野生動物の源を求めて森の奥へ入り込んで開拓、新型コロナウイルスのような新しい病原体に接触、それを人間社会に持ち込む機会が多くなっています。

**中国政府は初め新型コロナウイルス感染症の発生を隠蔽しようとしたましたが、それは新型コロナウイルス感染症が初めてではないでしょう。**

そうですが、しかし中国だけを別扱いするのは間違っています。米国もヨーロッパも新型インフルエンザの発祥地になったことがあります。例えば、最近では、H5N2 や H5Nx です。欧米の多国籍企業や新植民地主義的企業は、西アフリカのエボラ熱、ブラジルのジカ熱の発生の原因を作りました。米国の公衆衛生局は H1N1 (2009年) や H5N2 が発生したときアグリビジネスを擁護しました。

**WHO は国際的緊急事態を宣言しました。これは正しい処置ですか。**

ええ。このような感染症が怖いのは、その発生分布を政府が統計的に正確に把握できないことです。病原体がどのように働き、何にどのように反応するかが、まだ分からないのです。卸売市場から始まり、数週間で世界中に広まりました。ひょっとすると燃え尽きてしまうかもしれません。そうなればありがたいのですが、一切分からないのです。感染が拡大するものとして備える方が、病原体の脱出速度が低下する確率が高まるでしょう。

私はまた WHO の宣言をパンデミック劇場の一つだと思っています。国際機関というものは何か行動しないと存在意義を失い、死滅します。国際連盟がそうでした。国連の諸機関はいつも自らの存在意義や権力や資金のことを心配しています。ならば、WHO は政治的力学に気兼ねしないで、新型コロナウイルスの伝染チェーンを断ち切るために世界が必要とする備えと予防を提案することに集中しなければなりません。

**ヘルスケアのネオリベラル的再編によって、病院などの研究や患者ケアが悪化しました。ヘルスケア・システムにもっと資金が供給されておれば、新型コロナウイルスとの闘いが変わっていませんか。**

興味深い話があります。マイアミの医療機器会社の従業員が中国から帰国してきました。インフルエンザらしい症状があったので、家族や地域社会への感染を心配し、新型コロナウイルス検査を地元の病院へ申請しました。彼はオバマケアといわれる健康保険に加入していましたが、それは保障金が非常に僅かなので、検査費用が賄えるかどうか心配しました。彼の心配どおりの結果になりました。3270ドルも請求されて、たちまち窮地に陥ったのです。米国に必要な非常事態宣言は、パンデミック中は検査費用、陽性だった場合の治療費用、治療中の所得保障などを、すべて連邦政府が支払うという規定を含むものでなければなりません。そうしないと、医療費が払えない国民は病院へ行かなくなります — その結果他人に感染させます。国民に隠れないで助けを求めよと励ますのが政府の役目です。病気を隠し、社会の援助を求めないという馬鹿げたことが起きないようにするためには、本来、充実した国民皆保険 — 及び医師や看護師らの人材と医療施設や器具の充実 — の確立が必要です。

**新型コロナウイルス感染が起きると、各国政府は地域全体を強制的に隔離するなど、専制的手法を取っています。それは正しいやり方でしょうか。**

感染がかなりの件数起きてからそういう手法を使っていますが、それは災害資本主義の脱線です。私なら、失敗を覚悟で国民の信頼と思いやりに依拠する方法を採りますね。信頼

と思いやりはこのような疫病対策の基本的要素です。どちらか一つが欠けても政府は国民の信頼を失います。連帯感と相互信頼が難局を乗り切るための協力的行動を生み出すのです。行政による手厚い支援 — 専門チームによるチェック・イン、食糧や必需品の巡回配給システム、労働休業と失業保険等による所得保障 — に支えられた自主的隔離の中から、協力的行動が生まれるのです。みんなでいっしょに闘っているという感覚が生まれるのです。

ドイツではAfD（ドイツのための選択肢）が94議席を獲得し、事実上ナチスが復活しています。AfD議員と組んで極右グループが新型コロナウイルス危機を利用してアジテーションを行っています。偽りの情報を流し、政府にもっと取締りなど専制的方策 — 飛行便規制、移民入国禁止、国境封鎖、強制隔離などを行えと迫っています。

このグローバル病魔を人種的原因にすり替える手段として渡航禁止や国境封鎖を要求しているのです。馬鹿げたことです。今や新型コロナウイルスは世界各地に拡散しているので、感染者が誰であれその人を治療して回復させるようなグローバル公衆衛生が必要なのです。言うまでもないですが、資本主義的工業農業のように他人の土地を盗んでウィルスや他の病原菌の大量脱出を生み出す生産様式を止めれば、新型コロナウイルスがこれ以上暴れるのを止めることができます。

**持続可能な変革はどういうものになるでしょうか。**

新ウィルスによる発病を抑制するためには食物生産を根本的に変えるべきです。農民自治と公共部門の強化によって環境悪化と病原体の脱出・拡散をかなり抑えることができます。畑や村で多様な家畜や農作物を導入すること — 戦略的再野生化（rewilding）<sup>3</sup> — です。

食用動物生殖は、現場で免疫テスト合格を確かめて行うことです。適正生産と適正流通を結合することです。補助金を使って価格安定をはかり、エコ農業を支えると同時に消費者の購買力も支えることです。ネオリベラル経済が個人や社会に押し付ける強制や、資本家が牛耳る政府の抑圧からそういう試みを守ることです。

**新型コロナウイルス感染に関して、社会主義者は世の中に何を呼びかけるべきでしょう。**

公衆衛生という視点だけから見ても、社会的再生産としてのアグリビジネスを永久廃止すべきです。高度に資本主義化した農業生産は人類全体を危機に晒す — 今回の場合は新型コロナウイルスを解き放つ — 生産方法を採用しています。だから、まず第一に、このような危険な病原体を出現させないような方法で食物を生産するシステムを社会化することを呼びかけるべきです。そのためには、まず食物生産を農村や生態系の必要に合わせて再編成することが必要です。食用家畜の飼育方法を、生産者農民と環境を保護するエコ農業を復活させる形でやることです。一般的な言い方をすれば、生態系と経済とを分離してきた代謝亀裂を癒すことです。地球を取り戻すのです。

追加インタビュー

（上のインタビューがジャコビーノ（イタリア）に掲載されたとき、二つの追加質問があった。 — Marx21 編集部）

最近英国当局が、新型コロナウイルス感染を抑えるためには極端な手段を取らず、集団免疫が育つのを待つのがよいと提案しました。あなたはそれを解決を装った無為だと批判しましたね。

英国保守党は、新型コロナウイルス感染に対するヘルスケアを事実上やらないという米国のやり方<sup>4</sup>を採用する方が最良だと主張しています。政府は対応の遅れを逆手にとって、放っておけばやがて人々の間に集団免疫が育って自然に収まると考えたのです。医療の精神とは真逆の発想で、最悪の事態を経て「自然消滅」を待つというのです。

疫病学界では、集団免疫は、せいぜい副次的メリットとしか見られていません。病原体は進化しますから、集団免疫の効果は一時的です。やはり、ワクチンを開発して、その予防接種で免疫を誘発するのが正道で、人々に多大な犠牲を強いる集団免疫待望論は暴挙です。市場論理に妨害されてワクチン開発が出来ない場合は別にして、予防接種方法で多数の死者が発生することはありません。感染経路を辿ることができるなら、そんな事後的付帯現象を頼りとするような公衆衛生なんて、もはや公衆衛生ではありません。国民の健康を守る責務を持つ政府が病原体を好き放題暴れさせる政策を採るなんて、考えられないことです。何もしないことを解決策とすることです。

イタリアでは隔離や自宅勤務が奨励されているにもかかわらず、毎日多数の労働者が仕事に出かけています。工場、それも生活必需品生産とは無関係な工場が操業されているのです<sup>5</sup>。最近やっと労働組合と経営者連合とが職場の衛生管理と安全に関する合意が成立しましたが、その内容は労働者間の距離、職場の消毒、マスク着用について会社に「勧告」するだけのことで、何ら具体的措置はありません。労働者の要求はあまり重要視されませんでした。疫病対策で労働者の力はどのような役割を果たすのでしょうか。

労働者は、いわば戦争のときの消耗品です。戦場で犠牲になるばかりでなく、自宅でもそうなのです。イタリアではウイルスが中国以上に闊歩しているのに、経営者は普通の生活（資本家の眼にとって普通の生活）を装って、工場を操業しています。感染予防がない労働条件下で仕事をさせるのは、労働組合を馬鹿にしているだけでなく、国民全体の生命と健康を軽んじているのです。

組合の面子のためというより、労働者や国民のためにも、そういう工場を操業を即刻止めさせるべきです。イタリアの感染増は目もくらむ速さで、距離をあけるとか労働条件の交渉なんかでは抑えが効きません。ネオリベラル緊縮財政がもたらしたイタリアの貧弱な医療体制では新型コロナウイルスに対処できず、ウイルスは好き放題に暴れています。このような時だけに限らずいつも暗く危険な事態にツケを支払われるのが労働者です。しかし、絶対に必要なものを作る工場でないならば、労働者は出勤すべきではありません。工場を閉鎖し、労働者は国家衛生のために休業するのですから、国家が賃金を保障すべきです。

国民の命と健康を守る工場閉鎖に経営者が抵抗するなら、労働者階級は誇るべき労働闘争の歴史に依拠して、よく深い資本や無能な政府から指揮権を奪い取ることを考えてもいいでしょう。こんな危機の中で工場操業をする資本家、それを黙認する政府は、民衆の命を屁とも思っていない証拠です。

疫病のときに民衆が立ち上がった歴史的事例があります。歴史家シェルドン・ワッツが『疫病と歴史』<sup>6</sup>の中でそれに言及しています。

疫病を避けて逃亡したフィレンツェの治安判事たちは、後に残した平民たちがフィレンツェの支配権を取るのではないかと心配した。その心配には根拠があった。1378年の夏、門閥間の派閥争いでフィレンツェの支配層が一時的に動きがとれなくなったとき、織物職人が反乱に立ち上がって統治権を奪い取り、数か月間権力を握ったことがあったからです。

数か月間の工場操業停止で多くの命を救うのです。やがて多くの国もイタリアと同じような状態になるのですから、イタリアの労働者は、民衆の命が一部の金持ちの利益よりも大事だということを、世界に示すことができます。

---

<sup>1</sup>一般インフルエンザによる死亡者はとりわけ米国が多いが、これは保険制度の問題である。国民皆保険がない米国では貧者は病院へ行かずに我慢して、死ぬ場合が多い。

<sup>2</sup> Rob Wallace, *Big Farms Make Big Flu: Dispatches on Influenza, Agribusiness, and the Nature of Science*, Monthly Review Press, 2016。

<sup>3</sup> 開発した場所を自然に戻すなど、生態系を回復させること。

<sup>4</sup> トランプ政権は傍観する姿勢だったが、感染者増加や株価急落を受け、大統領選挙への心配から、遅まきながら対策を出した。英国も同じ道を歩んだ。

<sup>5</sup> さすがに現在では工場操業は停止されている。

<sup>6</sup> Sheldon Watts, *Epidemics and History, Disease, Power and Imperialism*, 1997。